

熊本高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	エンジニア実践学	
科目基礎情報							
科目番号	0033		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年		専1		
開設期	通年		週時間数		1		
教科書/教材	配布資料等						
担当教員	湯治 準一郎,松本 章,河野 修治,勇 秀忠,森山 毅,加藤 雅彦						
到達目標							
1. 技術者の企業内活動を通して、社会と技術の繋がりとその実際を説明できる。 2. 経営リスクなどの企業経営の問題について説明できる。 3. 技術士について制度の理解と社会的な意義を説明できる。 4. 情報を収集・整理して、問題を分析できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	企業の中での技術者の役割と社会と技術の繋がりが理解できている。		技術と社会との繋がりが理解できている。		技術と社会との繋がりが理解できない。		
評価項目2	企業経営の問題とその解決案について説明できる。		経営リスクなどの企業経営の問題について説明できる。		企業経営の問題が分からない。		
評価項目3	技術士の使命と社会的な役割について説明できる。		技術士について制度の理解と社会的な意義を説明できる。		技術士の社会との繋がりが理解できない。		
評価項目4	様々な情報を取捨選択して整理して、問題解決の提案が出来る。		情報を収集・整理して、問題を分析できる。		問題解決のための適切な情報収集や分析が出来ない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	企業を運営する上で、技術者が直面する問題やその解決法，組織人としての技術者が備えておくべき能力などを、実践的な視点から理解する。企業内で技術部門のマネジメントの経験のある技術者や地域企業の経営者，高専を卒業後上記のような実績を持つOBなどを講師として，そこからエンジニアリングの実践・実際に触れ、社会の要求にこたえることの意義も含めた広い意味の実践力の向上を図る。オムニバス形式で、学外研修形式の講義も含めて実施する。						
授業の進め方・方法	授業は、企業内で技術部門のマネジメントの経験のある技術者や地域企業の経営者，高専を卒業後上記のような実績を持つOB，地域で活躍する技術士の先生方によるオムニバス形式で、学外研修形式の講義も含めて実施する。						
注意点	・実施日程は、年度初めにスケジュール調整した後で連絡する。 ・スケジュール上は15回だが，通年で開講する。 ・評価は、つぎの項目により行う。 (1) レポートの作成：専門的能力（80%） (2) プレゼンの実施（20%） また、成績評価には含めないが、分野横断的能力に関して自己点検（アセスメント）を行う。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		科目概要と目標を理解する。		
		2週	地元企業のエンジニアリングの実際と課題Ⅰ（ヤマハ熊本プロダクツ）		企業での生産活動について理解する。		
		3週	地元企業のエンジニアリングの実際と課題Ⅱ（ヤマハ熊本プロダクツ）		企業での生産活動について理解する。		
		4週	地元企業のエンジニアリングの実際と課題Ⅲ		建築分野の仕事内容と分析方法を理解する。		
		5週	地元企業のエンジニアリングの実際と課題Ⅳ		建築分野の仕事内容と分析方法を理解する。		
		6週	地元企業のエンジニアリングの実際と課題Ⅴ		建築分野の仕事内容と分析方法を理解する。		
		7週	地元企業のエンジニアリングの実際と課題Ⅵ（KMバイオロジクス）		生命に関わる企業の業務内容と社会的役割を理解する。		
		8週	地元企業のエンジニアリングの実際と課題Ⅶ（KMバイオロジクス）		生命に関わる企業の業務内容と社会的役割を理解する。		
	2ndQ	9週	地元企業のエンジニアリングの実際と課題Ⅷ（KMバイオロジクス）		生命に関わる企業の業務内容と社会的役割を理解する。		
		10週	経営リスクⅠ・Ⅱ		経営上発生する問題について理解する。		
		11週	リスクマネジメントⅠ・Ⅱ		様々なリスクを理解し，対応策を考える。		
		12週	技術士資格・技術士からみた技術倫理		技術者の社会的役割を理解する。		
		13週	地域における技術士の役割・技術士試験の実際		技術士試験にチャレンジする。		
		14週	テーマ別プレゼンテーション準備		各テーマでの内容を整理する。		
		15週	テーマ別プレゼンテーション		自分の技術者像について，講義を通じて学んだことを全体に向けて発表する。		
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		レポート	プレゼン	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		0	0	0	
専門的能力		80	20	100	
分野横断的能力		0	0	0	